

先導的薬剤師養成に向けた多職種間連携学習の実践とその成果

○飯村 菜穂子¹, 宮下 しずか¹, 福原 正博¹, 安藤 昌幸¹, 阿部 学¹, 坂爪 重明¹,
杉原 多公通¹, 松井 由美子², 永井 洋一², 遠藤 和男², 金谷 光子², 西川 薫², 中山 和美²,
渡邊 榮吉², 真柄 彰², 吉嶺 文俊³, 藤澤 純一³, 小川 洋平³, 井口 清太郎³ (¹新潟薬大薬,
²新潟医療福祉大, ³新潟大医歯学総合病院)

【目的】医療の高度化、予防医学の発展も手伝って人々の寿命はさらに延長し、そのため超高齢社会が益々進行している。増加する高齢者に必要なことは、従来型の疾患治療を目的とする治療医学を越えた慢性疾患や障害と上手につきあい、向き合いながらADLを維持し、QOLを確保することにある。このことを実現し、また持続していく能力と高い倫理性をもち、各医療人と協働できる薬剤師の養成が求められている。今回、新潟大学や新潟医療福祉大学が主導している医療人教育、多職種間連携教育プログラムに新潟薬科大学薬学生が参加し、大学間、学部・学科間の垣根を越え多職種間連携、協働実践等々を学んだ。その学習意義、効果について報告する。

【対象と方法】薬学部の高学年生を対象に医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、理学療法士、管理栄養士、社会福祉士等を目指す他大学、他学部、他学科の学生と共に模擬的に医療チームを形成し、事例教材（モジュール）学習やフィールドワークを行い、グループディスカッションにより相互の理解を深めながらそこでの課題点を検討し、患者様や対象者様への適切なケア、QOL向上のための提案を検討することで多職種間協働実践学習を行った。本学習終了後には学生に対して意識調査を行い学習効果について検討した。

【結果と考察】学生達は患者様や対象者様の声を正確にとらえる力、問題点の抽出力が必要であり、また専門性ばかりを主張するのではなく他職種との情報交換、相互理解を深めていくことが医療発展のために重要であることを学んだ。さらに今回は本学習を修めた卒業生に対してこの学習が実際の現場においてどのように実を結んでいるかを調査したところ、様々な職場において大いに活かされる意義深い学習であり、薬学部においてより発展するプログラムとして存続を希望していることがわかった。大学としては一人でも多くの学生が学べる環境作りが今後の課題であると思われる。